

平成25年度第3四半期までの
生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと
当面する課題について

平成25年10月25日
一般社団法人Jミルク

1. 地域別生乳生産量の動向

【生乳生産量予測の前提】

- ・都府県及び全国の予測値は、指定団体ブロック別の生乳生産量予測値を合算して算出。
- ・指定団体ブロック別の予測値は、過去の生乳生産量実績データの動向パターンに基づく、気温や乳牛頭数等を組み込んだ予測モデル (ARIMA モデル) による推計値を基本に算出。
- ・平成 25 年度の気温は、平年並で設定している。

表 1：平成 25 年度第 3 四半期までの地域別生乳生産量（見通し） (千トン)

	全 国		北海道		都府県	
		前年比		前年比		前年比
4 月	650	100.1%	329	101.0%	322	99.3%
5 月	671	100.0%	343	101.0%	328	98.9%
6 月	638	99.4%	333	100.5%	305	98.3%
7 月	632	98.1%	333	98.5%	299	97.7%
8 月	608	96.5%	321	96.3%	286	96.7%
9 月	591	97.9%	308	96.8%	283	99.1%
10 月	611	97.3%	316	96.1%	295	98.6%
11 月	590	97.7%	304	97.0%	286	98.4%
12 月	621	98.2%	321	97.9%	300	98.6%
第 1 四半期	1,960	99.8%	1,004	100.8%	955	98.8%
第 2 四半期	1,831	97.5%	962	97.2%	869	97.8%
上期	3,790	98.7%	1,966	99.0%	1,824	98.3%
第 3 四半期	1,822	97.7%	941	97.0%	881	98.5%
合計	5,612	98.4%	2,907	98.4%	2,705	98.4%

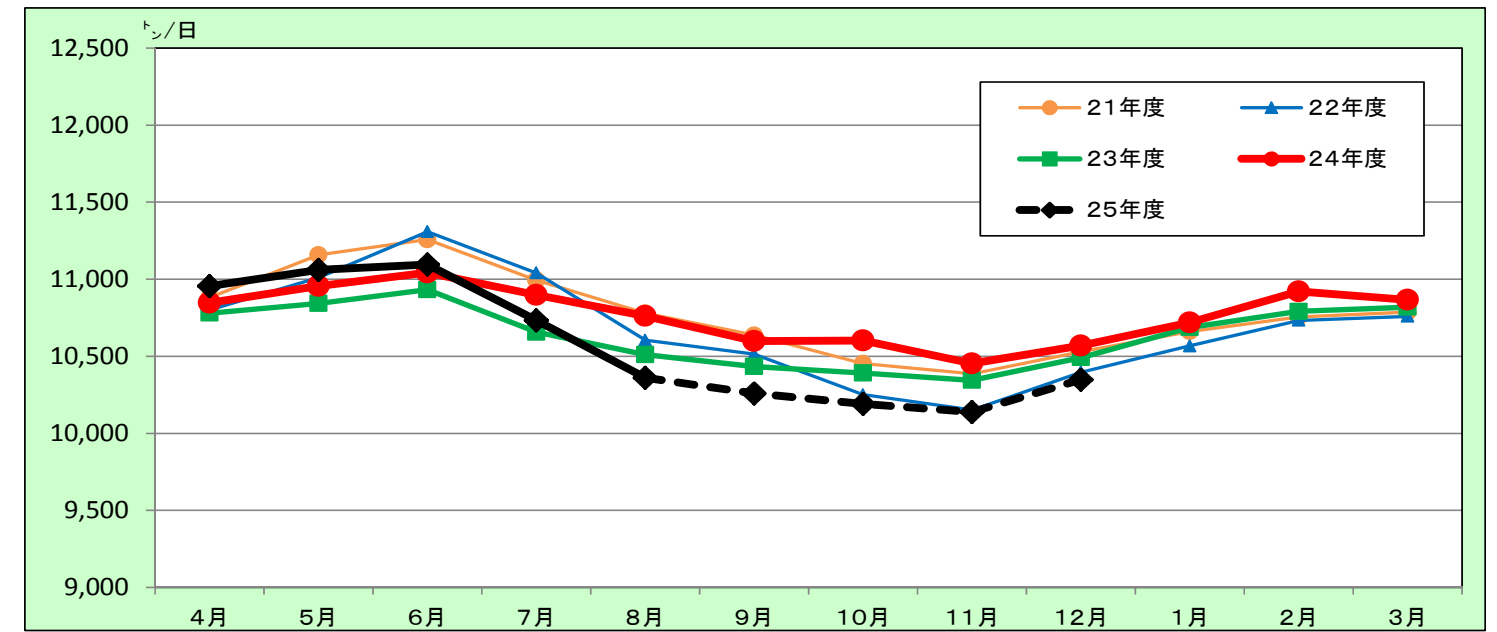
【生乳生産量の見通し】

直近 8 月までの生乳生産量は、北海道では 6 月までは前年度を上回って推移していたが、7 月以降は前年度を下回って推移している。都府県では前年度を下回る基調が続いている。その結果、全国では、5 月以降は前年度を下回って推移している。

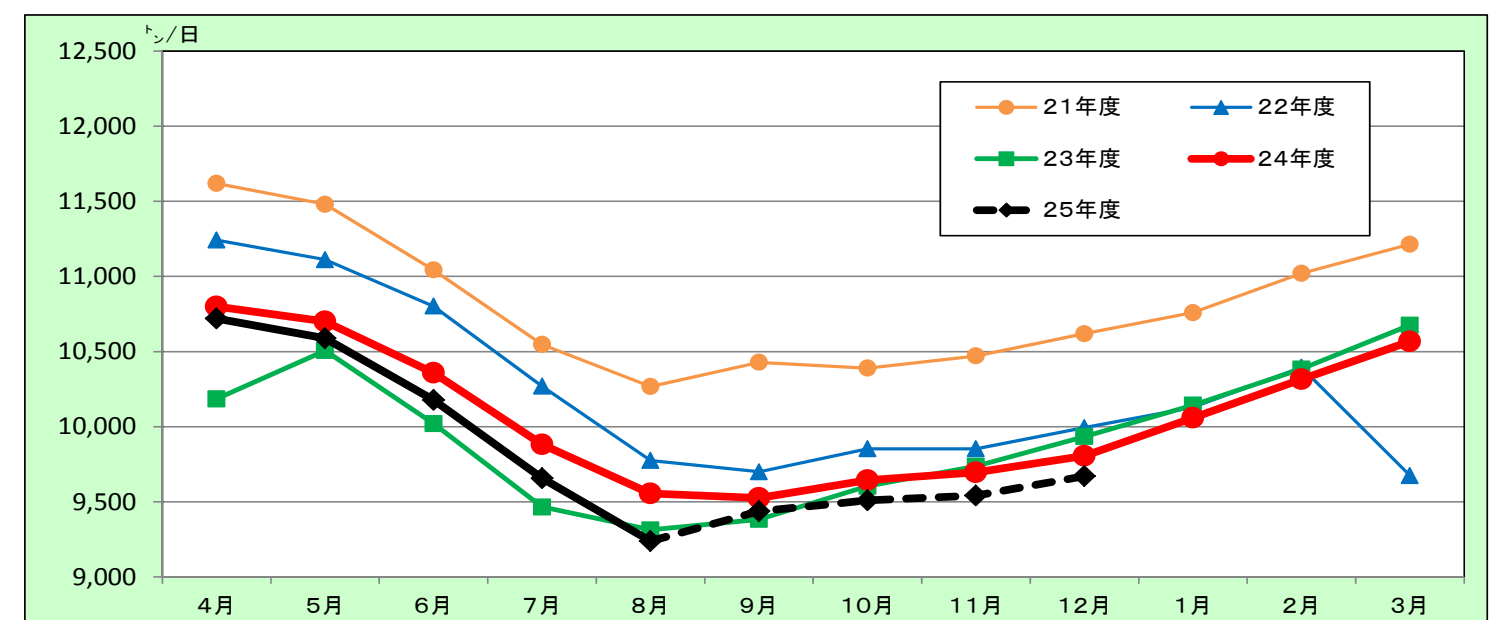
今後は北海道・都府県ともに、分娩予定頭数が前年度を下回って推移することが見込まれていることや、生産の主力となる 2～4 歳の飼養頭数が 5 月からは前年度を下回って推移していることなどから、今後も生乳生産量は前年度を下回って推移することが見込まれており、第 3 四半期では、北海道は前年比 97.0%、都府県では前年比 98.5% と見込まれる。

今後の変動要素としては、都府県においては猛暑の影響により生産量は一時的に落ち込んだものの回復も早く、今後への影響も比較的少ないとの指摘もある。また、北海道においても 1 頭当乳量が増加しており、関係者を挙げて適正な飼養管理徹底などによる減産への歯止めの働きかけも行われていることから、今後、生乳生産量については本予測を上回る可能性もある。

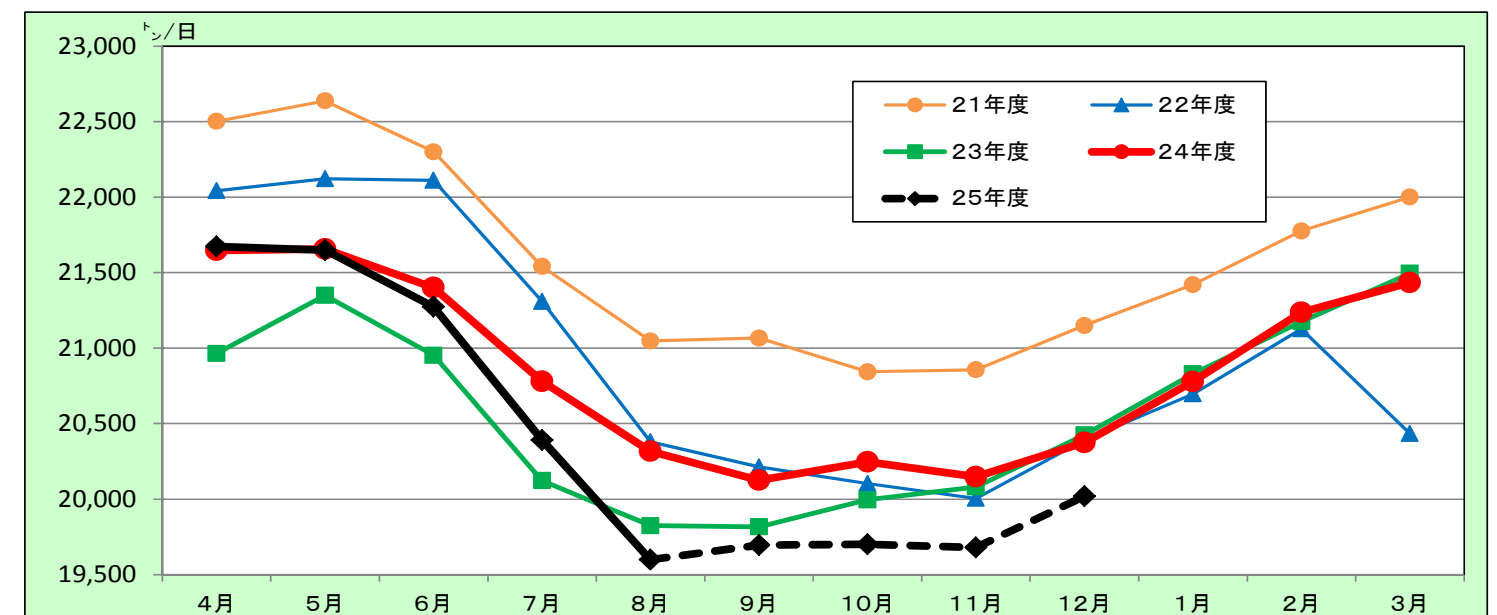
グラフ 1-1：北海道の生産量（日均量）



グラフ 1-2：都府県の生産量（日均量）



グラフ 1-3：全国の生産量（日均量）



2. 牛乳等生産量の動向

【牛乳等生産量予測の前提】

- ・各々の予測値は、過去の生産量実績データの動向パターンに基づく、気温や平日日数等を組み込んだ予測モデル(ARIMA モデル)による推計値を基本に算出。
- ・平成 25 年度の気温は、平年並で設定している。

表 2：平成 25 年度第 3 四半期までの牛乳等生産量（見通し）

(千kl)

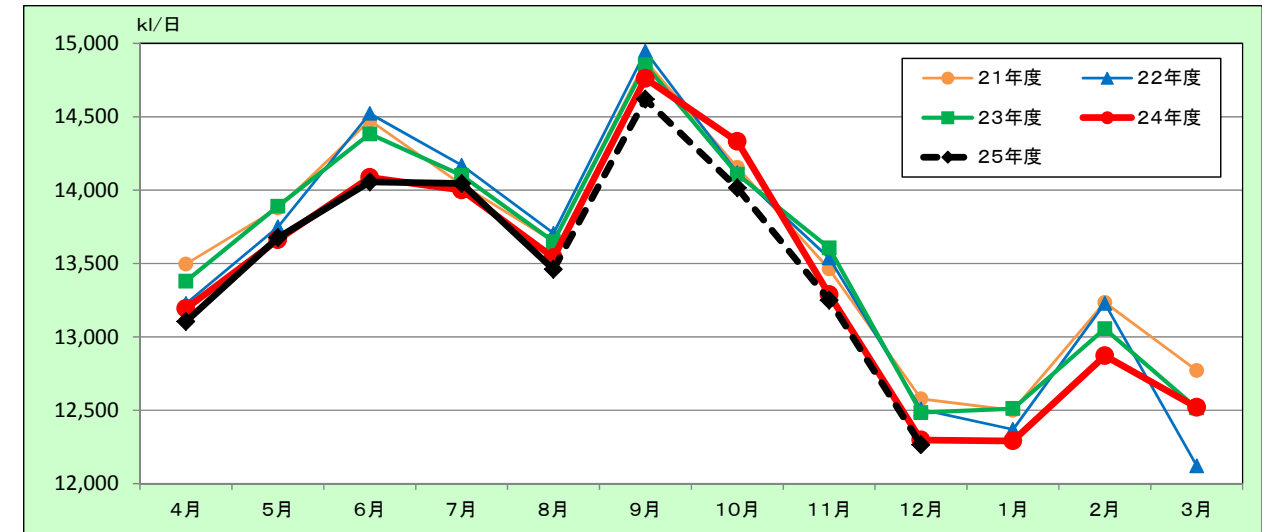
	牛乳類		牛乳		加工乳		成分調整牛乳		乳飲料		はっ酵乳	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
4 月	393	99.3%	246	99.4%	11	82.9%	28	91.9%	109	103.4%	90	106.3%
5 月	424	100.1%	265	100.2%	11	78.8%	29	92.0%	119	104.7%	91	102.3%
6 月	422	99.8%	262	99.5%	10	87.4%	29	94.3%	120	103.0%	87	101.5%
7 月	435	100.3%	263	100.2%	10	89.5%	31	93.8%	130	103.3%	88	101.2%
8 月	417	99.4%	244	99.9%	10	90.0%	32	94.4%	131	100.5%	84	101.8%
9 月	439	99.0%	270	98.6%	10	88.1%	31	94.9%	127	102.1%	84	100.5%
10 月	434	97.8%	271	98.6%	10	81.6%	29	95.0%	124	98.2%	86	103.6%
11 月	397	99.7%	253	99.0%	9	78.8%	26	95.0%	109	105.1%	80	104.7%
12 月	380	99.7%	241	98.8%	9	74.2%	26	94.6%	104	106.6%	77	105.7%
第 1 四半期	1,239	99.7%	773	99.7%	31	82.8%	86	92.8%	348	103.7%	268	103.3%
第 2 四半期	1,291	99.6%	778	99.5%	31	89.2%	93	94.4%	389	102.0%	256	101.2%
上期	2,530	99.7%	1,551	99.6%	62	85.8%	180	93.6%	737	102.8%	524	102.3%
第 3 四半期	1,212	99.0%	766	98.8%	28	78.2%	81	94.9%	337	102.9%	243	104.6%
合計	3,742	99.5%	2,317	99.4%	90	83.3%	261	94.0%	1,074	102.8%	767	103.0%

【牛乳等生産量の見通し】

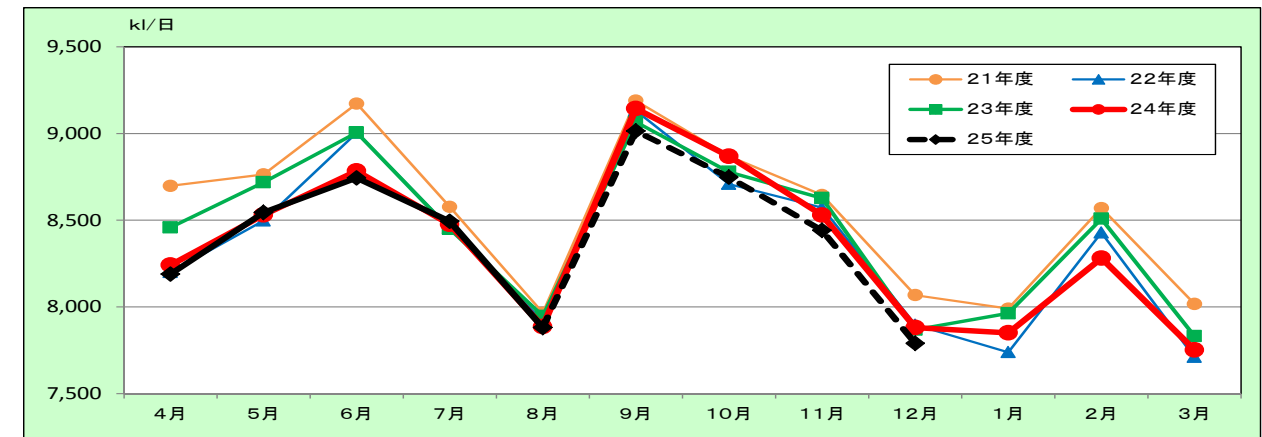
直近 8 月までの牛乳等生産量は、「牛乳」は前年度と同程度かやや下回る水準で比較的堅調に推移しており、「乳飲料」や「はっ酵乳」も、前年度を上回って好調に推移している。一方、「加工乳」と「成分調整牛乳」は、これまで同様、前年度を下回って推移している。

今後、第 3 四半期は、「牛乳」は前年比 98.8%、「牛乳類」では前年比 99.0%と見通したが、10 月 1 日からの乳値上げに伴う牛乳類の出荷価格改定が実施されていることから、その需要動向を注視する必要がある。

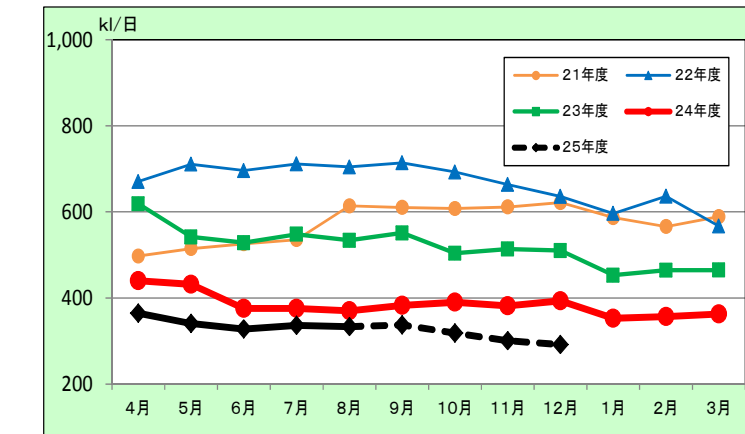
グラフ 2-1：牛乳類（牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料）の生産量（日均量）



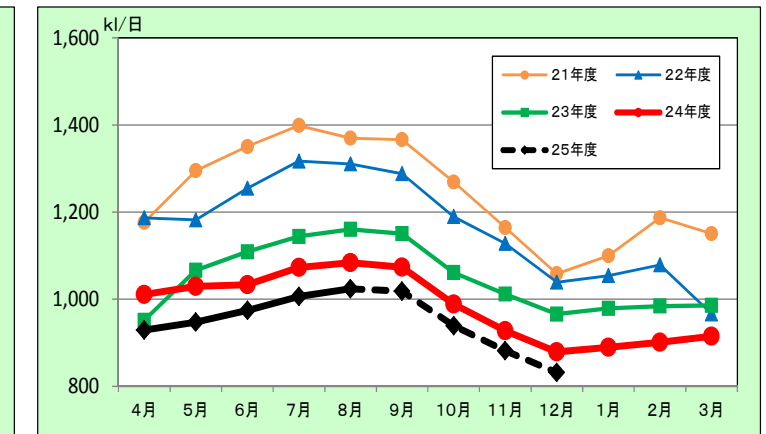
グラフ 2-2：牛乳の生産量（日均量）



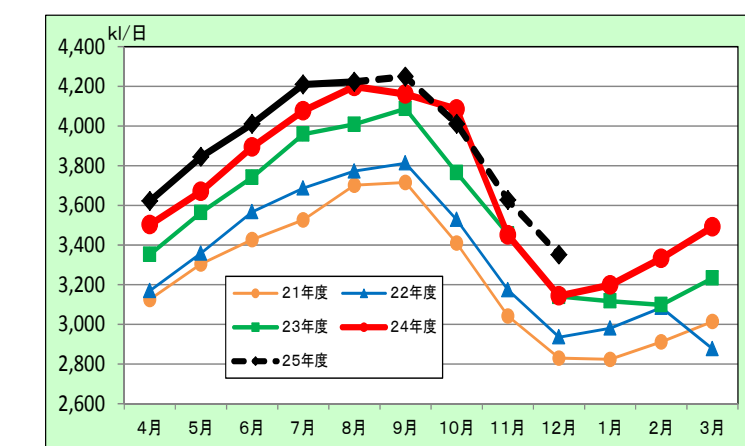
グラフ 2-3：加工乳の生産量（日均量）



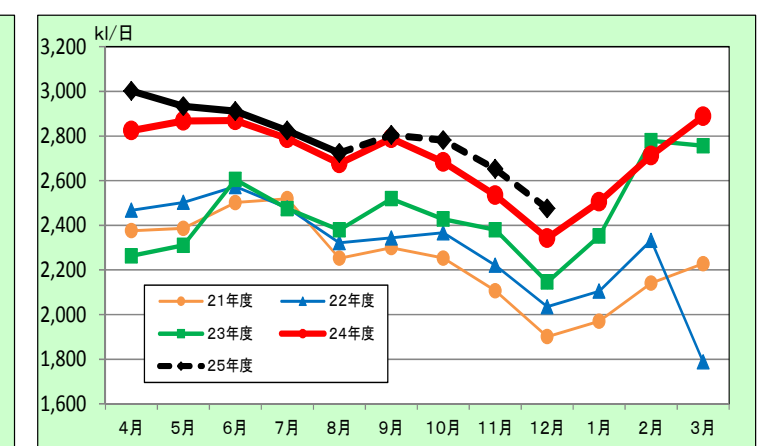
グラフ 2-4：成分調整牛乳の生産量（日均量）



グラフ 2-5：乳飲料の生産量（日均量）



グラフ 2-6：はっ酵乳の生産量（日均量）



3. 用途別処理量の動向

【用途別処理量予測の前提】

- ・生乳供給量は、生乳生産量から自家消費量を差し引いて算出(自家消費量は、各地域の直近までの動向を踏まえ設定)。
- ・牛乳等向処理量は、牛乳、加工乳、成分調整牛乳、乳飲料、はっ酵乳の予測生産量を基に、生乳使用率、比重(1.032)及び歩留まり(99.5%)を勘案して算出。
- ・乳製品向処理量は、生乳供給量と牛乳等向処理量の差。

表3：平成25年度第3四半期までの生乳供給量及び用途別処理量(見通し)

(千トン)

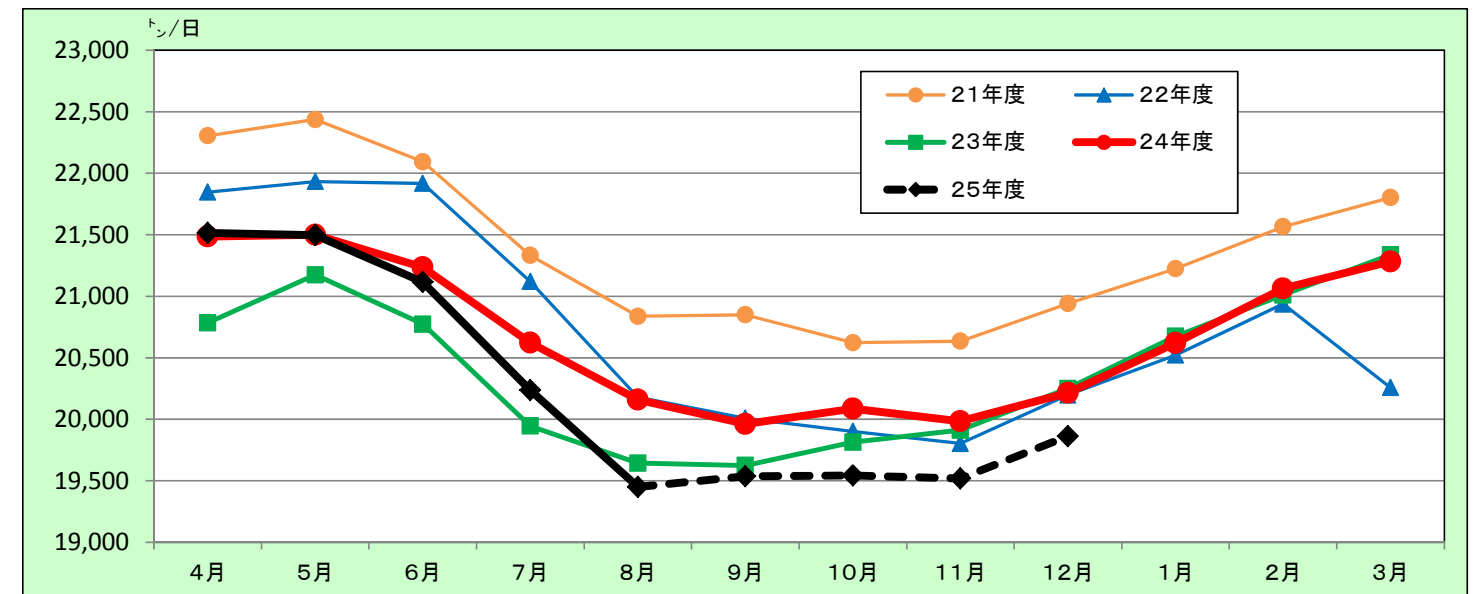
	生乳生産量		自家消費量		生乳供給量		牛乳等向		乳製品向	
		前年比		前年比		前年比		前年比		前年比
4月	650	100.1%	5	98.0%	645	100.1%	324	98.9%	321	101.4%
5月	671	100.0%	5	97.8%	666	100.0%	346	98.8%	320	101.3%
6月	638	99.4%	5	95.2%	633	99.4%	346	98.6%	287	100.4%
7月	632	98.1%	5	97.7%	627	98.1%	350	100.4%	278	95.4%
8月	608	96.5%	5	94.9%	603	96.5%	329	99.0%	274	93.6%
9月	591	97.9%	5	98.0%	586	97.9%	354	98.1%	232	97.5%
10月	611	97.3%	5	97.4%	606	97.3%	349	97.7%	257	96.7%
11月	590	97.7%	5	97.7%	586	97.7%	324	98.5%	262	96.7%
12月	621	98.2%	5	98.3%	616	98.2%	307	98.3%	309	98.2%
第1四半期	1,960	99.8%	14	97.0%	1,945	99.9%	1,017	98.8%	928	101.1%
第2四半期	1,831	97.5%	14	96.9%	1,816	97.5%	1,033	99.2%	784	95.4%
上期	3,790	98.7%	28	96.9%	3,762	98.7%	2,050	99.0%	1,712	98.4%
第3四半期	1,822	97.7%	15	97.8%	1,807	97.7%	979	98.2%	828	97.2%
合計	5,612	98.4%	43	97.2%	5,569	98.4%	3,029	98.7%	2,540	98.0%

【用途別処理量の見通し】

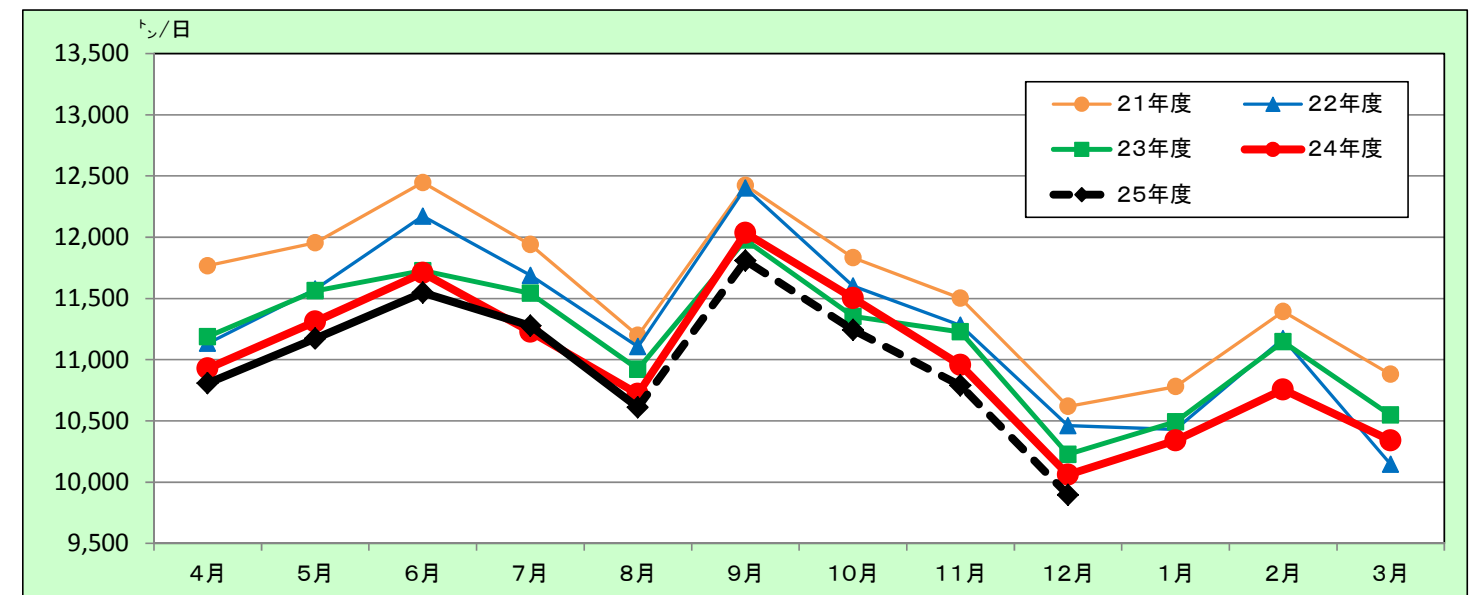
直近8月までの実績においては、生乳供給量が6月以降は前年度を下回って推移していることなどから、乳製品向処理量も7月以降は前年度を下回って推移している。

今後についても、乳製品向処理量の減少が見込まれるが、生乳生産量の上振れや牛乳等向処理量の下振れにより乳製品向処理量が本予測を上回る可能性があることも考慮されたい。

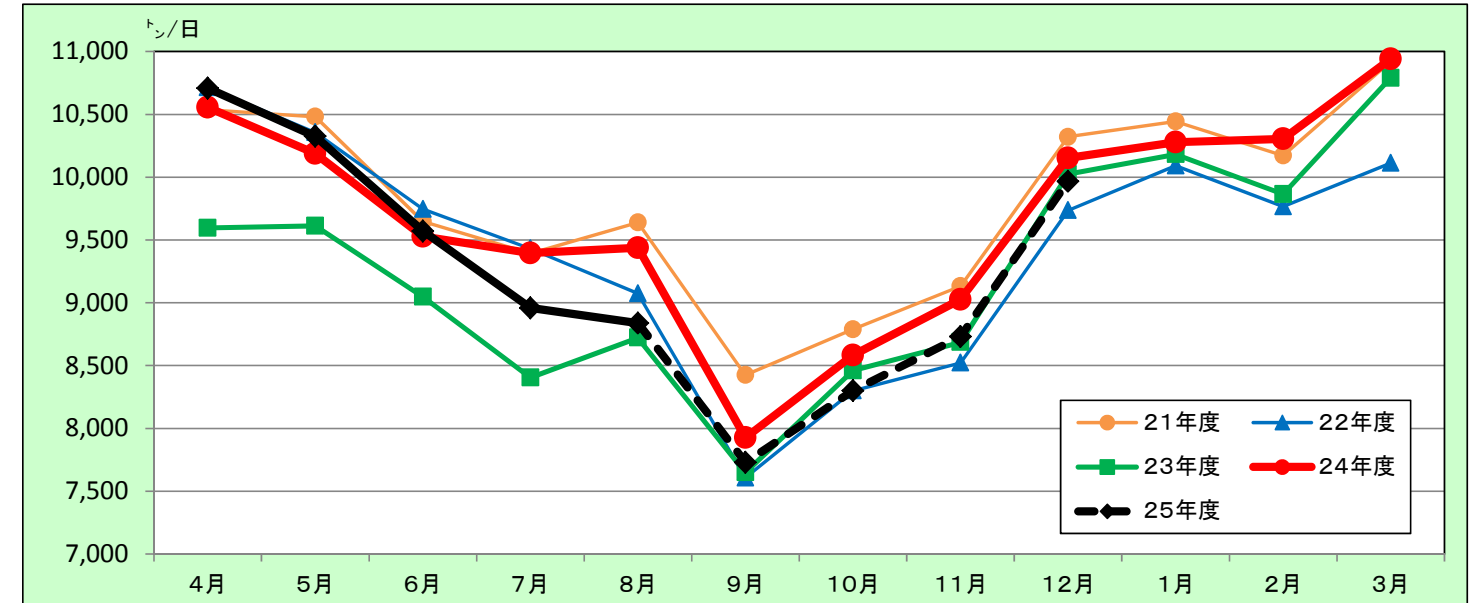
グラフ3-1：生乳供給量(日均量)



グラフ3-2：牛乳等向生乳処理量(日均量)



グラフ3-3：乳製品等向生乳処理量(日均量)



4. 都府県の生乳需給の動向

【都府県生乳需給予測の前提】

- ・「特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)向処理量」は、「過不足(A-B-C)」+「移入量」-「移出量」で算出。
- ・「移入量」は、下記2点の基本的考え方にに基づき設定。
 - ① 都府県で製造する北海道ブランド牛乳のために、必要な移入量は必ず発生するものとして設定。
 - ② 生乳需給上、ある程度の特定乳製品向処理量は必ず発生するものとして設定。

表4：平成25年度第3四半期までの都府県の生乳需給（見通し）

	生乳供給量		牛乳等向処理量		その他乳製品向処理量		過不足 A-B-C	移入量 (道外移出量)		移出量	特定乳製品向処理量	
	A	前年比	B	前年比	C	前年比		前年比	前年比			
4月	319	99.3%	281	98.9%	13	85.4%	25	19	94.0%	0	44	103.9%
5月	326	99.0%	302	99.2%	14	95.6%	10	21	96.7%	0	31	97.6%
6月	303	98.3%	302	99.0%	13	92.8%	-13	29	98.7%	0	16	90.1%
7月	297	97.7%	303	100.5%	13	85.3%	-19	34	104.7%	0	15	76.1%
8月	284	96.7%	283	99.2%	14	85.9%	-13	32	103.4%	0	19	82.2%
9月	281	99.1%	308	98.3%	13	90.1%	-40	48	93.2%	0	8	106.4%
10月	292	98.6%	303	98.0%	14	90.0%	-25	39	96.7%	0	14	120.7%
11月	284	98.4%	281	98.5%	14	90.4%	-11	27	98.5%	0	16	105.6%
12月	297	98.6%	265	98.5%	15	90.6%	17	21	98.2%	0	38	103.4%
第1四半期	948	98.8%	885	99.1%	40	91.1%	22	69	96.8%	0	91	99.0%
第2四半期	862	97.8%	894	99.4%	40	87.0%	-72	113	99.2%	0	42	83.2%
上期	1,810	98.3%	1,779	99.2%	80	89.0%	-49	182	98.3%	0	133	93.4%
第3四半期	874	98.5%	849	98.3%	43	90.3%	-18	86	97.6%	0	68	107.1%
合計	2,683	98.4%	2,628	98.9%	123	89.5%	-68	268	98.1%	0	201	97.6%

【都府県の生乳需給の見通し】

生乳需給については、今後も、生乳供給量及び牛乳等向処理量のいずれも前年度を下回って推移すると見込まれる。また、北海道から都府県への生乳移入量（道外移出量）についても、夏季の飲用需要期においては前年度をやや上回ったものの、今後は前年度をやや下回る水準で推移するものと見込まれる。

特定乳製品向処理量については、今後は前年度をやや上回って推移すると見込まれ、学乳休止期を含めた年末から年始の飲用不需用期においても前年度をやや上回る水準となることを見込まれる。

5. 特定乳製品需給の動向

【特定乳製品(脱脂粉乳・バター等)需給予測の前提】

- ・特定乳製品向処理見込数量は、乳製品向処理量からその他乳製品(生クリーム等・チーズ)向処理見込数量を差し引いて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの生産量は、特定乳製品向処理見込数量に製造係数(直近の動向等を反映した数値)を乗じて算出。
- ・脱脂粉乳・バターの消費量は、過去の実績データの動向パターンに基づく、価格や代替関係にある乳製品の処理見込数量等を変数に組み込んだ予測モデル(ARIMAモデル)による推計値を基本に算出。
- ・乳製品の在庫月数は、当該月の在庫量を前年度の一ヶ月平均の消費量で割ることで算出している。

表5：平成25年度第3四半期までの脱脂粉乳の需給（見通し）

	生産量		輸入 売渡し B	消費量		過不足 A+B-C	月末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
4月	13.8	103.8%	0.0	12.2	95.9%	1.6	51.0	4.4	106.0%
5月	13.1	103.8%	3.0	13.9	111.5%	2.2	53.2	4.6	110.2%
6月	10.8	103.8%	0.2	11.2	97.0%	-0.2	53.0	4.6	112.4%
7月	9.6	91.9%	1.5	13.4	105.7%	-2.2	50.7	4.4	113.0%
8月	9.4	88.6%	0.0	11.9	95.9%	-2.4	48.3	4.2	111.9%
9月	7.3	95.3%	0.2	12.1	108.4%	-4.5	43.7	3.8	110.1%
10月	8.8	94.2%	0.1	12.4	100.3%	-3.6	40.2	3.5	109.5%
11月	9.9	94.5%	0.0	11.4	107.5%	-1.4	38.8	3.3	105.8%
12月	14.5	98.3%	0.0	12.2	109.3%	2.3	41.1	3.5	102.1%
第1四半期	37.6	103.8%	3.2	37.3	101.5%	3.5	53.0	4.6	112.4%
第2四半期	26.3	91.6%	1.7	37.3	103.2%	-9.2	43.7	3.8	110.1%
上期	64.0	98.4%	4.9	74.6	102.3%	-9.2	43.7	3.8	110.1%
第3四半期	33.2	96.0%	0.1	35.9	105.5%	-2.6	41.1	3.5	102.1%
合計	97.2	97.6%	5.0	110.5	103.3%	-8.4	41.1	3.5	102.1%

グラフ5：脱脂粉乳の消費量及び在庫量（四半期毎）

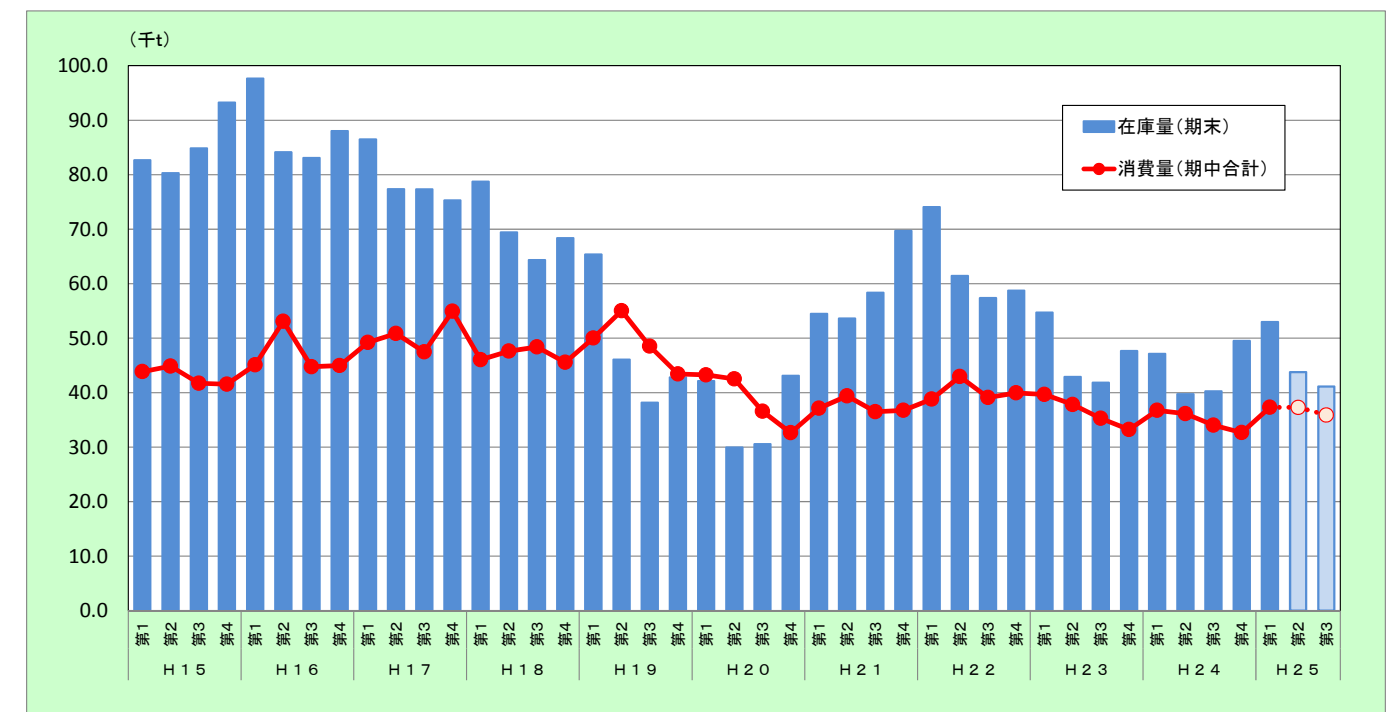
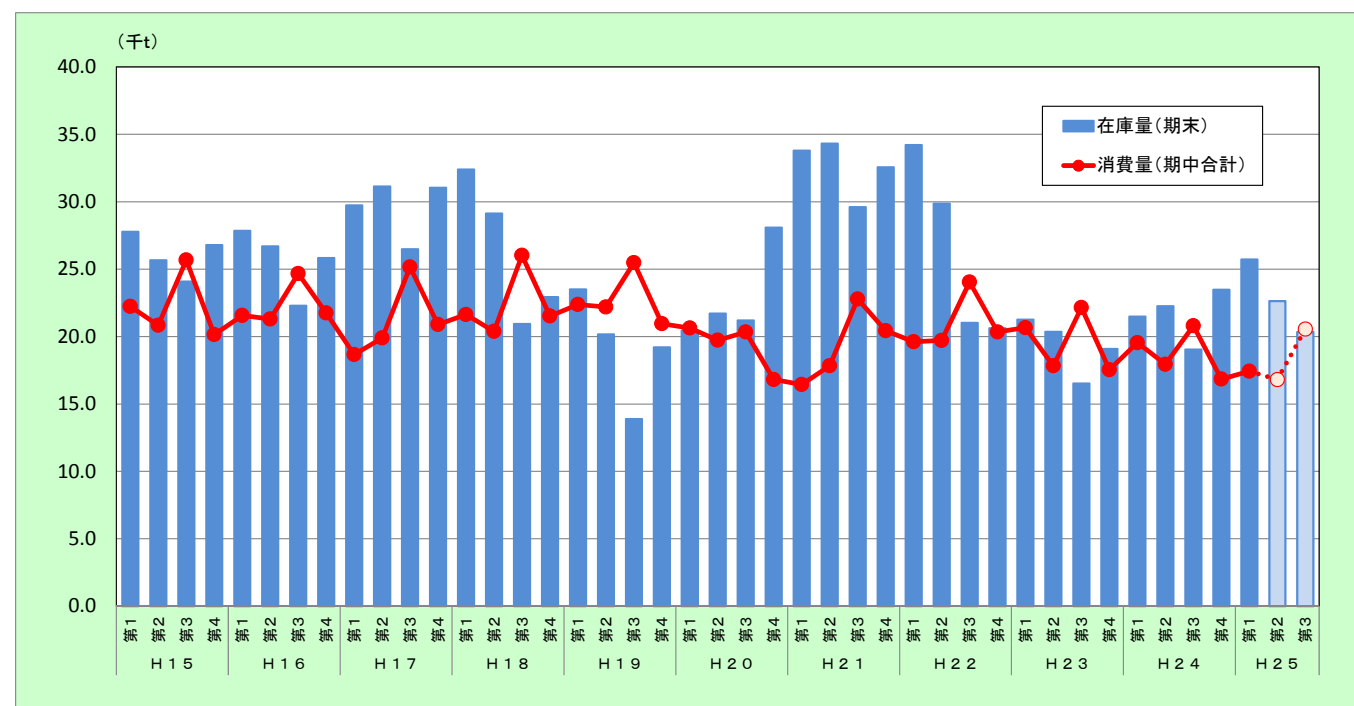


表6：平成25年度第3四半期までのバターの需給（見通し）

(千トン)

	生産量		輸入 売渡し B	消費量		過不足 A+B-C	月末在庫量		
	A	前年比		C	前年比		月数	前年比	
4月	7.0	104.1%		6.1	95.8%	0.9	24.4	3.9	125.3%
5月	7.0	107.1%		5.5	87.0%	1.5	25.8	4.1	123.7%
6月	5.7	103.3%		5.8	85.1%	-0.1	25.7	4.1	119.7%
7月	5.1	94.4%		5.8	94.0%	-0.7	25.0	4.0	116.6%
8月	5.1	90.5%		5.7	94.8%	-0.6	24.5	3.9	111.0%
9月	3.5	95.3%		5.4	92.2%	-1.8	22.6	3.6	101.7%
10月	4.1	94.2%		6.0	107.2%	-1.9	20.7	3.3	97.8%
11月	4.6	94.5%	0.5	6.5	87.2%	-1.4	19.3	3.1	94.5%
12月	6.1	98.4%	3.0	8.1	104.0%	1.0	20.3	3.2	106.7%
第1四半期	19.7	104.9%	0.0	17.4	89.2%	2.2	25.7	4.1	119.7%
第2四半期	13.7	93.1%	0.0	16.8	93.7%	-3.1	22.6	3.6	101.7%
上期	33.4	99.7%		34.2	91.4%	-0.8	22.6	3.6	101.7%
第3四半期	14.8	96.0%	3.5	20.6	98.9%	-2.3	20.3	3.2	106.7%
合計	48.2	98.5%	3.5	54.8	94.0%	-2.3	20.3	3.2	106.7%

グラフ6：バターの消費量及び在庫量（四半期毎）



【特定乳製品（脱脂粉乳・バター）需給の見通し】

脱脂粉乳については、今後、生産量は前年度を下回って推移することが見込まれる。一方、消費量は、はっ酵乳や乳飲料が好調なことなどあって、前年度を上回って推移すると見込まれる。また、カレントアクセス分輸入数量として10月末までに5千トンが売り渡されることから、在庫量については、今後も前年度を上回る水準で推移するものと見込まれ、第3四半期末（12月末）における在庫量は、41.1千トン（3.5か月分・前年比102.1%）と見込まれる。

バターについては、生産量は脱脂粉乳と同様に前年度を下回って推移することが見込まれる。しかし、消費量についても減少傾向と見込まれていることに加え、最需要期の12月までにカレントアクセス分輸入数量として3.5千トンが売り渡される予定となっていることから、第3四半期末（12月末）における在庫量は、20.3千トン（3.2か月分・前年比106.7%）と見込まれる。

6. 当面する課題と対応について

(1) 生乳の生産動向

生乳生産量については、北海道も含めて全国的に減少傾向に転じており、今後もこの基調で推移することが懸念される。一方、国産牛乳製品需要の減少も見込まれており、生乳需給は縮小均衡で進みつつある。今後の酪農乳業の産業力の維持・強化のためには、まず、業界全体で国内生乳生産基盤の維持・拡大を図る取り組みが必要である。

(2) 牛乳類の消費動向

牛乳類の消費動向は、直近においては全体としては比較的堅調に推移しており、現在のところ、出荷価格改定の影響は顕在化していない模様である。今後の市場での価格転嫁による牛乳類の消費減少が懸念されるとの指摘もあるが、引き続き、消費者等に向けた価格改定の背景についての理解醸成及び牛乳製品の価値訴求を中心とした消費拡大の取り組みを業界全体で推進していくことが重要である。

(3) 牛乳類の不需用期における的確な対応

学乳休止期を含めた年末から年始における都府県の特定乳製品向処理量は、前年度をやや上回る水準になるものと見込まれる。今後、牛乳類需要が本予測以上に減少した場合においては、急激な需給変化も想定され、酪農乳業関係者は混乱を生じないように、日々の需給動向や加工向け処理の発生状況等の情報共有化に努めるとともに的確な配乳計画や処理計画を策定し、適切なオーダー・配乳に努める必要がある。

以上